

24. イヌハギ (マメ科ハギ属)

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Sieb.

2014年9月

河原や海に近い日当たりのよい砂地に生える多年草で、茎は高さ60~150cmで下部は木化し、葉とともに黄褐色の軟毛が密生します。葉は羽状の3小葉で、頂小葉は頂楕円形で長さ3~6cmです。花は開放花と閉鎖花があり、開放花は7~9月に帯黄白色の花を総状花序に多数つけます。がくは5深裂し長さ約6mm、開出する白黄色の毛を密につけます。閉鎖花は開放花が終わるころに、やや多数が葉腋に集まってつけます。分布は本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、台湾、中国、インド、ヒマラヤで、兵庫県での記録は浜坂町、上月町、加東市、小野市、三木市、神戸市、宝塚市、西宮市（福岡ほか：兵庫県産維管束植物4）で記録されています。現在、近くで見られるのは高砂市域の旧加古川流域で1箇所、加古川市のため池2箇所で、草刈などの維持管理がされているような日がよく当たるところに生育しています。兵庫県版レッドデータブック2010のCランク、近畿版レッドデータブック2001のAランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストのVUランクで非常に希少な植物です。イヌハギに対してネコハギ (*Lespedeza pilosa* (Thunb.) Sieb. et Zucc.) があります。本種はため池堤体や自然度の高い道ばたなどによく見ることができるといえるハギ属植物で、茎は1mほどで細長く、地面を這い、イヌハギ同様、全体に開出した軟毛があります。頂小葉は長さ1~2cmと小さく、開放花も葉腋に数個つけ、閉鎖花は上部の葉腋に1~3個つけるのが特徴です。



イヌハギ



イヌハギの花拡大



イヌハギの葉



イヌハギの閉鎖花



ネコハギ